

ポルトガル語の疑問文

黒澤 直俊
Naotoshi KUROSAWA

1. 認否疑問文

肯定か否定かの答えを予測する認知疑問文は、文末のイントネーションが上がり調子になる。文法的小辞や語順など統辞的な手段が用いられることはない。より正確には、核音調、すなわち文末のアクセントのある音節から上がり調子になる。書き言葉では "?" をおき、スペイン語のように、疑問を構成する部分の始まりを "¿" で示すことはしない。

(1) O António telefonou. (↘) アントニオは電話した (平叙文)
the António telephoned

(2) Telefonou o António. (↘) (語順が変わっているが意味は同じ) (平叙文)

(3) O António telefonou? (↗) アントニオは電話しましたか? (認知疑問文)

(4) Telefonou o António? (↗) (語順が変わっているが意味は同じ) (認知疑問文)

(3), (4) に対しては sim 「はい」 / não 「いいえ」 や、動詞の肯定形や否定形で答えることも出来るが、ポルトガルでもブラジルでも肯定の答えとしては (4b) が普通で、sim / não による答えには (4c) のように動詞句で補足されるのが普通である。

(4a) Sim, telefonou. (↘) はい、電話しました
yes telephoned

(4b) Telefonou. (↘) 電話しました

(4c) Não, não telefonou. (↘) いいえ、電話しませんでした
no not telephoned

否定の疑問文は通常肯定の答えを予測する場合用いられることが多い。

(5) Não estás de acordo comigo? (↗) 君は私に同意しないのですか
not you-are agree with me

認否疑問文の文末のイントネーションについて彌永 (2002) は「ポルトガルの一般疑問文の音調は、どの場合も降昇調でかわらず、ブラジルの一般疑問文では、強勢のある音節に向かってピッチは上昇し、そこで頂点を作り、さらに続く音節があれば下降するという型をとる」(ibid., p.31) と指摘している。ポルトガルとブラジルでは無強勢音節の実現様式が異なるので、それらをふまえた分析も必要かもしれない。さらに、文末の音調に加え、文頭のピッチが高い場合があるという指摘もある。

次のような従属文の構造をとる疑問文もよく使われる。

(6) Acha que os pais actualmente podem fazer alguma coisa? (↗) (PF, Portugal)
you-think that the parents actually can do some thing

実際、両親になにか出来ると思いますか?

(7) Será que vai ter eleição para presidente? (↗) (PF, Brasil) 大統領の選挙があるだろうか?
it-will-be that isgoingto have election to president

音調や分裂文、擬似分裂文などにより一部に強調がある場合とその答え方の例を以下に示す。

(8a) A Inês vai a Lisboa AMANHÃ? (↗) イネスがリスボンへ行くのは明日? (音調による強調)
the Inês goes to Lisbon tomorrow

(8b) É amanhã que a Inês vai a Lisboa? (↗) (分裂文により、意味は (8a) と同じ)
it-is tomorrow that the Inês goes to Lisbon

(8c) Amanhã é que a Inês vai a Lisboa? (↗) (擬似分裂文により、意味は (8a) と同じ)
tomorrow is that the Inês goes to Lisbon

(9a) Sim, vai (amanhã). (↘) はい、(明日) いきます

(9b) Sim, é amanhã que ela vai. (↘) はい、彼女が行くのは明日です
yes is tomorrow that she goes

(9c) Sim, amanhã. (ㄨ) はい、明日

(9d) Não, não é amanhã que ela vai, mas sim depois de amanhã. (ㄨ) いいえ、彼女が行くのは明日ではなく、明後日です
no not is tomorrow that she goes but yes afterwards of tomorrow

A または B を問う選択疑問文では文末の音調は下降調になる。答え方は次に述べる部分疑問文に近い。

(10) Vocês querem leite (ㄨ) ou café? (ㄨ) 君たちは牛乳が欲しいですか、コーヒーですか？
you want milk or coffee

2. 部分疑問文

1) 疑問詞の種類

部分疑問文では通常イントネーションは平叙文と同じ下降調になる。上昇調で発音されると、その疑問文自体を問う反復疑問文になるのが通常の解釈である。現代語で用いられる疑問詞は以下である。

疑問形容詞：que 「何の、どの」、qual 「どの」、quanto 「どれだけ」

疑問代名詞：que 「何」、o que 「何」、quem 「誰」

疑問副詞：onde/aonde 「どこ」、quando 「いつ」、por que/porque 「なぜ」、como 「いかに」

ブラジル特有の形式に *cadê* 「～はどこ？」がある。*quede/que é de* というバリエントも老人層には見られる。中世語には *cujo* 「誰の」があったが、現代語ではほとんど見られない。*que* は、単独で疑問代名詞としては *o que* と同じ意味になる。*por que* と *porque* は正字法上のバリエントで、答えを導く「なぜならば」は *porque* である。以下、例文を挙げる。

(11) *Cadê* aquele caderno amarelo? あの黄色いノートはどこだい？
where is that notebook yellow

(12) Não sei *cadê* o caderno amarelo. 黄色いノートがどこか知らないよ
I don't know where is the notebook yellow

(13) *Que* vinho trago? どの／どんな／どれだけの ワインを持っていく？
which wine I bring

(14a) *Dão* Terras Altas. (ワインの具体的な商標を答えている)

(14b) *Tinto*. 赤

(14c) *Aí* umas três garrafas. 3本くらいかな
then some three bottles

(15) *Quais* livros compraste? どの本を買ったの？
which books you-bought

(規範文法は「*qual*+名詞」の連続を嫌う傾向があるが、実際の言語運用ではポルトガル、ブラジルともによく使われる)

(16) *Para qual cidade* você foi? (Português Falado, Brasil) どの都市へ行った？
to which city you went

(17) *Quais* compraste? どれを買ったの？
which(pl.) you-bought

(18) *Quantos* bebeste? 何杯飲んだの？(想定する内容によっては「何本」もあり得る)
how many you-drink

(19) *Quantos copos* bebeste? 何杯グラスを飲んだの？
how many glasses you-drink

(20a) *Que* fazes? 何をしているの？
what you-do

(20b) *O que* fazes? 何をしているの？
what you-do

(21) *Quem* veio à vossa festa? あなた方のパーティーに誰が来ましたか
who came to-the your party

(*vosso* は語源的には *vós* 「汝らの」に対する所有詞だが、ポルトガルでは *vocês* 「君たち」に対する所有詞として用いられる)

(22) *Onde* vais? どこに行くの？
where you-go

(23) Quando vens cá passar a tarde? いつ君はここに午後を過ごしに来るの?
when you-come here spend the afternoon

(24) Por que demoraste tanto? どうしてそんなに時間がかかったの?
why you-delayed so much

(25) Como conseguiste chegar até cá? どうやってここまで来れたの?
how you-achieved arrive up to here

関係代名詞同様、疑問詞にかかる前置詞は文末に残すことが出来ない。

(26a) Com que programa trabalhaste? どのプログラムで仕事をしたの?
with what program you-worked

(26b) *Que programa trabalhaste com? (前置詞が文末にくることは許されないため非文)

2) 語順

ポルトガルのポルトガル語には部分疑問文の主語・動詞の語順に制約がある。ポルトガルのポルトガル語を PP、ブラジルのポルトガル語を BP で示す。

(27) Onde trabalhas? どこで君は働いているの?
where you-works

(28a) Onde trabalha a Maria? どこでマリアは働いていますか?
where works the Maria

(28b) (*PP/BP) Onde a Maria trabalha? (語順が変わっているが意味は同じ。ポルトガルでは非文)
where the Maria works

(29a) O que leu a Maria? マリアは何を読みましたか
what read the Maria

(29b) (*PP/BP) O que a Maria leu? (語順が変わっているが意味は同じ。ポルトガルでは非文)
what the Maria read

動詞が ser, estar の場合は、ブラジルでも非文法的とする話者が多いという報告がある。ただし、ブラジルのポルトガル語では話者によって文法適格性判断の揺れが激しいので注意が必要である。

(30a) Quem é Paulina? パウリーナは誰ですか?
who is Paulina

(30b) (*PP/*BP) Quem Paulina é?

(31a) Onde está Paulina? パウリーナはどこですか?
where is Paulina

(31b) (*PP/*BP) Onde Paulina está?

同じような構造をとる文でも疑問の部分が複数の語句からなる場合や疑問詞の後に強調の é que が続く場合は、ブラジルでもポルトガルでも次のような語順が可能である。

(32a) Quantos livros a Maria leu? 何冊の本をマリアは読みましたか
how many books the Maria read

(32b) Quantos livros leu a Maria? (語順が変わっているが意味は同じ)

(33a) Que trabalhos a Maria fez? どういう仕事をマリアはしましたか
what works the Maria made

(33b) Que trabalhos fez a Maria? (語順が変わっているが意味は同じ)

(34a) Onde é que a Maria trabalha? どこでマリアは働いていますか
where it-is that the Maria works

(34b) Onde é que trabalha a Maria? (語順が変わっているが意味は同じ)

強調句には次のようなブラジル特有のものもある。

(35) (*PP/BP) Quem que ela mais odiava? 誰を彼女は一番憎んでいたのか
whom that she most hated

3) 間接疑問文

(36) Pergunto se estás contente. 君が満足しているかどうか私はたずねる
I-ask if you-are satisfied

(37) Pergunto quem vem jantar. 誰が夕食に来るか私はたずねる
I-ask who come to dine

(38a) Perguntei o que os meus amigos fizeram. 私の友人たちが何をしたか私はたずねた
I-asked what the(pl) my friends did

(38b) Perguntei o que fizeram os meus amigos. (上と同じ意味で語順が異なっている)

(39a) Perguntei que fizeram os meus amigos. (上と同じ意味で疑問詞が異なっている)

ところが、(38a)の主語と動詞の語順を変えると que が接続詞と解釈され非文となる。

(39b) * Perguntei que os meus amigos fizeram.

(39b)の文の que の後に強調の é que を挿入すれば疑問詞と解釈されるので文法性は保たれる。

(39c) Perguntei que é que os meus amigos fizeram.
I-asked what it-is that the(pl) my friends did

4) 二重部分疑問文

文中にふたつ以上の疑問詞を持つ文もある。

(40a) Quem disparou contra quem? 誰が誰に向かって発砲したのですか?
who shot against whom

(40b) A polícia disparou contra os manifestantes. 警察がデモ隊に向かって発砲しました
the police shot against the(pl) demonstrators

(41a) Quem disse o quê? 誰が何を言ったのですか
who said what

(41b) *O que disse quem? (基本語順に反するためか適格な文ではなくなる)

(42) Quem disse o quê a quem? 誰が何を誰に言ったのですか
who said what to whom

(43a) Onde vamos comer o quê? どこで何を私たちは食べましょうか
where we-go to eat what

(43b) *O que vamos comer onde? (文の構成要素の階層性に関する制約のため不適格になると考えられる)

5) 疑問詞の位置

規範文法では扱われないことが多いが、口語では、疑問詞が動詞句の後に来るのは普通である。

(44) Comeste o quê no restaurante? レストランで何食べた?
you-ate what in+the restaurant

(45) Vai sair quando? いつ出かけますか
you-goes go out when

文末に疑問詞が来ると、反復疑問文となることもある。

(46) Queres o quê? 何が欲しいの? / 何かが欲しいだって?
you-want what

(47) Queres O QUÊ? 何かが欲しいだって?

(48) Não ouvi bem, queres O QUÊ? よく聞こえなかった, 何が欲しいだって?
not I-heard well you-want what

3. 付加疑問文

..., não é verdade? / ..., não é assim? / ..., não é? / ..., né? / ..., não? などは主文が肯定でも否定でもよく用いられるが、「..., não + 述語動詞」は肯定の主文の後で、「..., pois não?」は否定の主文の後に来るのが普通である。

(49) Ela comprou um carro novo, não comprou? 彼女は新しい車を一台買った, そうだね?
she bought a car new not she-bought

(50) Ela comprou um carro novo, não é? (意味は同じ)
she bought a car new not it-is

(51) Ela não comprou um carro novo, não é? 彼女は新しい車を一台買ってない, そうだね?
she not bought a car new not it-is

ブラジルでは述語動詞がもう一度繰り返される場合がある。ポルトガルでは非文である。

(52) (*PP / BP) Ela não comprou um carro novo, comprou? 彼女は新しい車を一台買ってない、そうだね?
she not bought a car new she-bought

4. 最後に

ポルトガル語の疑問文については、音調面や WH 移動の問題、さらに自然会話における言語運用などの観点から研究を進める余地があると考えられる。

例文の出典

(1)~(5): Mateus (2003), (6), (7): Português Falado, (8)~(9): Mateus (2003), (10): Perini (2004), (11), (12): Perini (2002), (13)~(15): Mateus (2003), (16): Português Falado, (17)~(29): Mateus (2003), (30)~(31): Perini (2002), (32)~(34): Mateus (2003), (35): Perini (2002), (36)~(48): Mateus (2003), (49)~(52): Perini (2004).

Português Falado はリスボン大学で構築された口語データベースで、例文は公開されている資料から引用した。

参考文献

- 彌永史郎 (2002). 「ポルトガル語のイントネーション」『ANAIS』, 21-38 頁, 大阪: 日本ポルトガル・ブラジル学会.
Mateus, Maria Helana Mira, et al. (2003). *Gramática da Língua Portuguesa. 5.ª edição, revista e aumentada*. Lisboa: Caminho.
Perini, Mário A. (2002). *Modern Portuguese. A Reference Grammar*. Yale university Press.
Perini, Mário A. (2004). *Talking Brazilian. A Brazilian Portuguese Pronunciation Workbook*. Yale university Press.